

ごみが処理されるまで

～空へとつづく「ごみ」のたび～



「ごみ」をガス化炉で燃やします。

ついに、ごみが燃やされます。ごみを燃やす『ガス化炉』は、500度の温度で連続して供給されるごみを、燃やします。流動床式ガス化炉では、砂層に空気が送り込まれて流動状態となっています。投入されたごみは流動砂によって分散されます。ここで、ごみの一部を部分燃焼させ、その燃焼熱を利用して可燃物を可燃性ガス、未燃分および灰に熱分解します。

かるねんしょう ガス化炉による燃焼

①ガス化炉上部 かる じょうぶ



②ガス化炉下部 かるかぶ



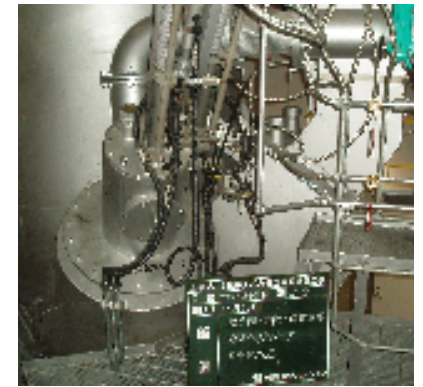
③ガス化炉外観 かる がいかん



④設置前のガス化炉 せっちまえ かる



⑤ガス化炉バーナー かる



【イメージ図】

ここからごみは
はいって行きます！

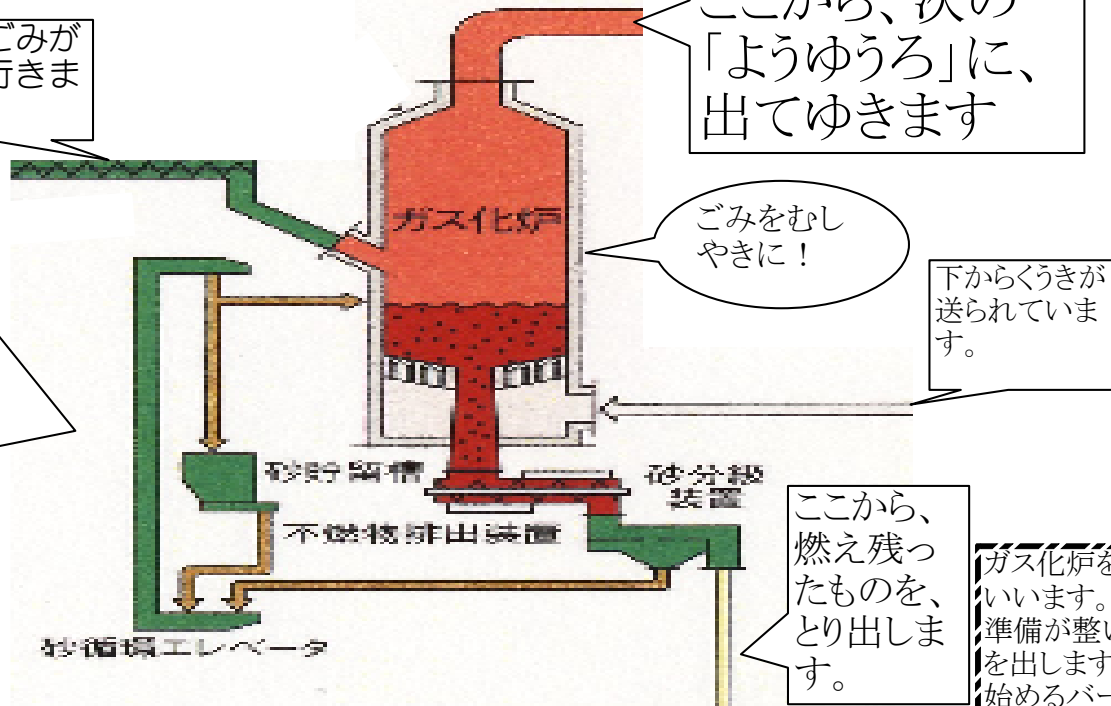
ここから、次の
「ようゆうろ」に、
出てゆきます

ごみをむし
やきに！

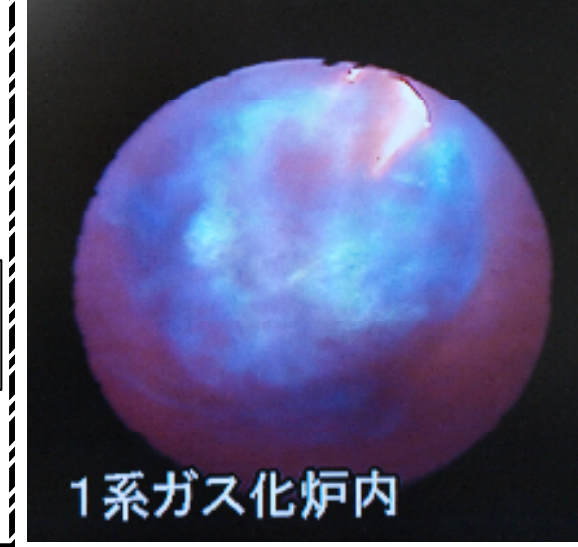
下からうきが
送られています。

ここから、
燃え残ったものを、
とり出します。

かすなを
じゅんかん
させつつ



⑥ガス化炉の燃やし始めの画像



1系ガス化炉内

ガス化炉で
ごみを燃や
すには、約
1～2日間、
ガス化炉を
空焚きして、
暖めます。
ガス化炉の
温度が安定
した時点で
初めてごみ
を燃やさせ
ます。

ガス化炉を空焚きしてごみを燃やす準備を行う事を「立上」といいます。1回の立上には、約35000lの灯油を使います。準備が整い、初めてごみを投入する時には、ごみが青い炎を出します。立上の際にガス化炉を暖めたり、ごみを燃やし始めるバーナー炊きでは灯油を使用します。

